51th
# 東京城東ロータリークラブ週報
国際ロータリー第2580地区

2017.　2.　20　　第2373回例会

## 感謝の心で 奉仕と親睦を

東京城東ロータリークラブ会長　細谷　貞治

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　長 | 細谷貞治 | 副会長 | 阿　部　豊 |
| 幹　事 | 兒玉正行 | 副幹事 | 江波戸健治 |
| | | 会報委員長 | 池永憲明 |

ＲＩ会長
ジョン F. ジャーム
第2580地区ガバナー
上 山 昭 治
第2580地区幹事
田 中 永 二
ガバナー補佐：鈴木秀史
(東分区担当)
東分区幹事　：瀧澤一郎
東分区副幹事：鈴木正名

人類に
奉仕する
ロータリー

### 本日の卓話

「 個のやる気を引き出す 」

日本水泳連盟上級コーチ
髙 城 直 基 氏

2017/2/13（月）
「 平成29年度税制改正について 」
今 井 邦 彦 会員

### ニコニコボックス

○今井さん、本日の卓話よろしくお願いします。
細谷貞治君・兒玉正行君・阿部　豊君
奈良康司君・篠田秀樹君・宮﨑浩一君
石川　勲君・伊藤健一君・山田　昇君
鯨岡俊司君・青木桂三君・重田敦史君
江波戸健治君・渡辺孝至君
山﨑富士夫君・池永憲明君
宇都宮秀雄君・篠田泰彦君
○卓話を致します。　今井邦彦君
○お祝いを頂いて。
奈良康司君・宮﨑浩一君・伊藤健一君
会田　博君・積田喜一君・出店要蔵君
大鳥居武司君・津覇好延君

小計￥71,000.-　累計￥1,654,000.-

### 2017年2月13日 例会報告

| | |
|---|---|
| 点　鐘 | |
| ロータリーソング | 『手に手つないで』 |
| ゲストスピーカー | 0名 |
| ゲスト及びビジター | 1名 |
| 会員出席状況 | 48名中41名(出席率85.42%) |
| 前々回訂正出席率 | 100% |

**- 2月の受付当番 -**
岸田君/重田君/篠田(秀)君/杉田君/鈴村君

### 次回の卓話

「　北斎の住む町 墨田区　」

墨田区役所 区民活動推進部長
鹿島田 和宏 氏

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

## ＲＩニュース：2017.1.11

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

### 最前線での教育―①

**ナイジェリアでは大学長とロータリークラブが教育と食糧の配給を通じてボコ・ハラムと闘っています。**

荒涼とした北東部の街ヨーラにあるナイジェリア・アメリカン大学の学長室で、マージー・エンサインさんはそのニュースを聞きました。274 キロほど北にある町チボクで、全寮制学校の女子生徒 300 人あまりが眠っているところを襲われ、銃口を突きつけられて拉致されたのです。襲撃したのは、テロリスト集団「ボコ・ハラム」でした。

その頃すでに、ナイジェリア北部でのボコ・ハラムの襲撃から逃げ出した人々が難民となってヨーラになだれ込み、創立間もない大学の学長であるエンサインさんはその混乱の中で奮闘していました。仲間のロータリアンを含む地元リーダーたちと共に、40 万人にまで膨れ上がった難民の命をつなぐ食糧配給プログラムを必死に運営していたのです。

2014 年 4 月に拉致事件が報じられた後、大学に勤めていたある女性がエンサインさんとの面会を求めてきました。学長室に通されたこの女性は、襲撃の夜にボコ・ハラムのトラックから飛び降りて草むらに逃げ出すことに成功した 58 人の少女の中に、自分の妹がいると訴えました。エンサインさんはすぐに、脱出した少女たちの家族と連絡を取り、大学の付属高校に彼女たちを迎えると申し出ました。最終的に 27 人がその申し出を受け入れ、襲撃から 4 カ月後の 8 月 30 日、エンサインさんは少女たちを迎えに戦闘地帯の真っただ中へと向かいました。

大学の警備責任者、ライオネル・ローリンズさんは当時を振り返ってこう語ります。「私たちの向かった先は危険地帯です。ボコ・ハラムの支配地域に入って少女たちを連れ出すのですから。出発前日の朝、警察署に行き、『準備はできましたか』と尋ねると、『我々は同行しない、危険すぎる』という答えが返ってきました。私は学校に戻ってエンサインさんに、2 人だけで行くことになったと告げました。互いの目を見て、エンサインさんが考えていることが手に取るようにわかりました。『あなたに行く気があるなら、私も行きます。さあ、迎えに行きましょう』と彼女は答えました」

2010 年にヨーラに赴任した時、エンサインさんはこんな事になるとは想像もしていませんでした。カリフォルニア出身の教育者であり、学校運営の経験も豊富なエンサインさんは、ナイジェリア・アメリカン大学（AUN）の運営責任者としてこの国にやって来ました。AUN は、2004 年に元ナイジェリア副大統領である富豪のアティク・アブバカル氏が設立した大学です。アブバカル氏はあえて失業率 80%、非識字率 75%、栄養失調による発育阻害率 47% という国内で貧困率が最も高く、最も開発が遅れている州のひとつ、アダマワ州の州都ヨーラに大学を開設したのです。

エンサインさんが 2010 年にヨーラに到着後まもなく、エンサインさんはヨーラ・ロータリークラブの AUN 支部の創立を支援しました。ロータリーの活動によって、大学の指導者たちが積極的に地域社会へ関わるようになると知っていたからです。また、学生には地域開発コースを必修課程として導入しました。

そして迎えた 2012 年 1 月。エンサインさんが赴任して 2 年とたたないうちに、最初の危機が訪れました。ナイジェリア政府が燃料補助金を打ち切ったため、各地で抗議運動が起こったのです。エンサインさんは、著名なムスリム指導者であり、大学の理事長であるアーメド・ジョーダさんに訴えました。そこで二人は知人に声をかけ、大学に集まってもらい、ここで生まれたのが、アダマワ・ピース・イニシアチブ（API）という組織でした。API では有望な若者を見出し、支援することを活動の中心とすると決めました。当時、ヨーラには約 2 千人の孤児と 4 万人のアルマジリ（家族から離れコーランを学ぶため寄宿する子供達）がおり、大学の門前に集まって物乞いをする姿がよく見られ、テロリストの勧誘のターゲットになりやすいのが、こうした子供達でした。

API の最初の主要プログラムは「Peace through Sports」（スポーツを通した平和）と名付けられました。宗教や民族が異なる地元の少年少女を「統一チーム」に編成し、一緒にスポーツをし、食事も一緒にします。ある少年がエンサインさんに言いました。「このプログラムかボコ・ハラムか。ここにはそれ以外ないんだ」

（次週に続く）